

## 令和5年度第2回白井市まち・ひと・しごと創生審議会

日時：令和6年2月27日（火）午前10時から12時

場所：白井市役所東庁舎3階会議室303

出席者：【委員】

高尾 公矢会長、山田 壽一副会長、齊藤 重光委員、駒村 武夫委員、  
染谷 敏夫委員 中村 泰章委員、大野 哲生委員、河野 はるか委員、  
古作 優一委員

【事務局】

企画政策課 村越課長、多納主任主事、佐竹主事

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 白井市第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改訂について

【会長】

皆さん、こんにちは。着座にて挨拶させていただきます。本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

創生会議の審議会の目的は、人口減少をとにかく食い止めて、そして町の衰退を一緒に食い止めていくということが狙いであるわけです。

ところが、人口は2008年をピークに1億2,800万人ぐらいだったわけです。だけど現在1億2,400万人、つまり2008年から400万人減少しているのです。毎年60万人前後が減少しているという。そうすると、毎年、島根県の1県がなくなっていっているということになるのです。このままいきますと社会保障はもちろんのこと、防災であるとか、教育であるとか、様々な分野の生活に影響が出てくるのです。

政府は今、少子化対策で必死になって議論していますけれども、国会の議論を聞いていましてもあまりよく分からないですよね。とにかく月500円を医療費に上乗せするのだというようなことばかり言っているわけです。やることは何かというと、保育対策なのです。保育対策やっても、子供が生まれないということは、はっきりしているわけです。だってエンゼルプランでずっと30年以上やってきて、子供は増えなかったわけですから。そうすると、考え方としては、地域でとにかく何とかしていかざるを得ないという。政府にあまり期待できないというのが、今日の現状なのです。

そういう意味で言いますと、地域のまち・ひと・しごと創生審議会の役割というのは非常に重要になってくると同時に、次に続くデジタル構想、これがやはり一つの地域の活性化の狙いではないかというふうに考えるわけです。

そこで、今回は本年度の5月に地方創生推進交付金や、まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証、それから地方版ふるさと納税の状況についての説明がありました。今回の審議会では、主に白井市の第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間延長に伴う一部改訂や、本年度事業を実施しているデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業の効果検証に関する審議を行いたいというように考えます。

白井市の地方創生の根幹をなす総合戦略の改訂に関する審議となりますので、事務局からの説明を受けまして、委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見、御質問を伺いたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

それでは、次第に従いまして、議事を進行していきます。

まず議題の1です。白井市第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略の一部改訂について、事務局から説明をお願いいたします。

#### 【事務局】

資料1～4に沿って説明。

#### 【会長】

それでは、今説明を受けましたけれども、御質問、御意見がありましたらお願いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

創生総合戦略の一部改訂についてですが、いかがでしょうか。〇〇委員さん、いかがでしょうか。

#### 【委員】

御説明伺いまして、大変よくできているなという感想です。

ただ、デジタルを使って活性化するという手法についての説明であったかと思うのですが、けれども、お話しいただいている内容については、皆ごもつともというところなのですが、こういったことを実際に具現化するというか実施するという、いわゆる成果を上げるという視点で考えたときに、これでできるのという。書いたものは素晴らしいけれども、これを実施する環境がすごく重要だろうと。器ができていないのに、その器の中にいろいろとたくさん盛り込んでも、それ、みんなばらばらで收拾つかないのではないですか。

つまり、具体的な成果を上げるのは、なかなか難しいよねと。やはり都市計画というか、環境を整備して、その環境の中に落とし込んでいくということが重要だろうと思うのです。

ですから、皆さんやっていることについては何も問題ないし、異論はないのですけれども、それ以前に市としてこういった施策を実現するために、環境を皆さんで一緒になって改善していきましょうよというコンセンサスを、まずつくらないといけないのではないかなと。

そのためには、市が考えている施策を皆さんに分かりやすくテーブルの上に乗せて。小さな町なので、やりやすいと思うのですけれども。住民の皆さんの合意を形成するということがとても重要だろうと。その合意を形成した上で、こういった施策を乗せてい

くと実現していくので、みんなどうしたらいいというふうにはできるので。

第二小学校区というのがあるのですけれども、第二小学校区では非常にまめにやっています。そういった取組を進めていって、その地区ごとの合意を形成するという事。そして、その合意の先にあるのは都市計画であって、その都市計画に合わせて話し合いをして、そして、こういう施策を乗せていくというふうになると、前に少しずつでも前進できるのではないかなというふうに感じますけれども。

意見になっているかどうか分かりませんが、以上です。

#### 【事務局】

〇〇委員、ありがとうございます。まち協のお話までしていただいて、ありがとうございます。委員のおっしゃっていただいた市民の意見の合意形成みたいなのは、もちろんごもっともなところでございます。そういったところも踏まえて、御説明の冒頭のほうでお話しさせていただいた総合計画との整合性の確保ということで、総合計画、来年度から本格的に策定のほうに移っていく形になるのですけれども。

総合計画のほうで、住民意識調査は本年度からもう始めているのですけれども、住民意識調査でしたり、ワークショップという形で地区に出ていって、市民の皆さんのまちづくりに対する御意見をお伺いしたり、実際どういう町になったらいいかというところを丁寧に行っていくような形になってございます。

そこで取り入れた意見を踏まえて総合計画を策定していくわけですが、その中から地方創生にかかる分野の意見ももちろん抽出しながら、取組として、総合計画、今皆さんに審議していただいている総合戦略、それぞれ整合性を取りつつ、どうすれば地域を活性化していけるだろうというところをここで1年延長させていただいて、総合計画と足並みをそろえながら、新たな総合戦略を策定させていただければなと考えさせていただいております。

これでご説明になっていたか分からないのですけれども。大丈夫でしょうか。

#### 【委員】

皆さんの意見を聞くというところは、とても素晴らしいのです。聞いた上で、個々の住民や我々が全体を描くということは非常に難しい。

ですから、皆さんの意見を聞いた上で絵を描くということは、市の仕事ではないのかなと。あるべき姿、こうあったらいいよねというものを市が示してくれないと、次の段階には行かれない。

だから、皆さんの話を聞いたということで、こういうプランをつくって、どうですかということではなくて、これを聞いた上で総合プランというか全体の絵を描いて、描いた絵について、皆さんどうですかと。行政としては、こういう絵を描きましたということで、皆さんの合意を形成する。その上で次のステップに入ると、前に出られるのかなと。その2番目のところがあまり示されていないので、皆さん、どうと言われても、うーんと言っ

て、自分の身の回りのことしか考えられない。それでは全体が描けないし、行政プランもいいプランが提示できないのではないかなと、そんなことを思います。間違っているかなと思うので、その辺どうなのでしょう。

【会長】

考え方としてはそうなのだと思いますけれども、総合計画が一応あるわけで、それに基づいてデジタル構想も整合性を取って作り上げていくということになるかと思うのです。だから、これについて、いろいろな意見を伺っておきたいと思いますが。

〇〇委員さん、いかがでしょうか。

【委員】

〇〇でございます。目指すべき方向でデジタルを活用した云々とあるのですが、目指すべき方向をデジタルということに定めたのであれば、基本目標の中にその施策が入っていないとおかしいじゃないですか、項目だけでも。具体策はこれからまた検討するにしても、これを目標の中にどうやって反映するのか、項目立てぐらいいはしておかないと、計画の変更にならないですよ。

それと、このデジタル化ですけれども、基本的にデジタル化って、人手不足を補うだとか効率化を図るためにやるのですけれども、本来まち・ひと・しごとって、人口を増やす、あるいは維持していくという大きな目標があるのですけれども、それはデジタルとどういうふうに整合するのか。労働不足を補うためにデジタルをやるのであれば、人口を減らさなくて、人口を増やしていくような方向性を示すべきではないかと。せっかく入れたのに、施策が伴っていないというふうに感じます。

【会長】

意見として伺っておいて、ずっと意見を聞いていきたいと思いますが、順番にいかがでしょうか。〇〇委員さん。

【委員】

〇〇でございます。今、皆さんの意見を聞いている中で、壮大なスケールのことをやっている中で、自分も何かから手をつけたらいいのかなというところは想定できないのですけれども、漠然とし過ぎているので、これから議論していく中で、具体的にこういったことをやるんだみたいなものが出てくるといいなというふうに感じております。

以上です。

【会長】

順番に回って、お願いしたいと思います。

【委員】

〇〇でございます。よろしく申し上げます。私の方としても、白井市がこれからデジタル戦略を加えて人口減少を食い止めるというところで一番思っているところは、やはり若者をどれだけ入れられるか、今いる子供たちを食い止めるかというところが大事だと思う

のですけれども、私も子供たち見ていると、いつも片手にスマホを持って、スマホに対してのすごい関心があるのです。ですから、そこを何とか。これからそういう話になっていくのかもしれませんが、若い世代でも私らでも、スマホをいじってネット見たりとか毎日毎日しますので、そこをうまく利用できるところが一つの明るくなる場所ではないかなと。今のこの状況で、まだ話せることではないかもしれませんが、そう感じました。

以上です。

#### 【会長】

それでは、順番にお願いします。

#### 【委員】

〇〇です。私は2点ほどありまして、1点目は、人口減少に対する対策という話がありましたが、人口減少を当然食い止めるのも大切ですし、一つは、地域経済、日本経済全体だと思うのですけれども、これまでの日本が強かった産業からの転換に世界から取り遅れていると思うのです。付加価値をどういうふうに生産性を上げて、今後生み出していくかということがないと、恐らく人口が増えたとして国は豊かにならないし、地域社会も豊かにならないと思っております。そういったところを白井市で何ができるかということを考えていくのも重要だと思います。

もう1点は、市民目線で見ますと、今、少子化対策とか子育て支援というのは、各自治体とか各都道府県で、各家庭の目線から見ると、実際に実現されるのかは微妙ですけれども、かなり魅力的なプランがボンッと出たりして、例えば高校まで全部無償化とか、私立も含むとかという話になると、住民は結構シビアに見ていると思うのです。えっ、それだったら、じゃあ都内に行ったほうがいいんじゃないの、家賃が高くなってもトータルで見たらプラスだよという話になってきてしまうので。

白井市を比較するとき、うちの妻なんかも、今後引っ越したり、どうするという話をしていたときに、白井市って何をやっているのかなと。特色がパンチがちょっと弱い感じがして。

財政の問題とかあると思うのですけれども、一つドンッと打ち上げると、結構みんなアイキャッチで、えっ、そっちすごいなとか。近隣の自治体でも、第2子以降保育料が無料になっているところもありますので、分かりやすく魅力的なものをバンッと出していかないと、住民の人は細かく見る人少ないと思うので、じゃあ、近場で市川に行ったほうがいいかなとなってしまうと思うので、そういうのが分かりやすく出るといいのかなと思っております。

#### 【委員】

〇〇です。先ほどの資料の改訂に関する目標値の改変についてなのですが、今、現行のものと資料を見比べると、目標値の改訂、累計値等が変更されている点について、そのまま一定の割合で増やしている形かと思うのですけれども、1年延びることによって

増加率は一定のままでいいのかというのがまず1点と。先ほど〇〇委員もおっしゃられていましたが、2番の目指すべき方向のところに、「エ デジタルを活用した社会問題の解決」という項目が単純に追加されているにもかかわらず、基本事項に追加事項がないので、そこら辺を設定したほうがいいのかというふうに思いました。

以上です。

**【会長】**

そこだけ、今の質問に対する考え方を教えてください。

**【事務局】**

まず KPI のところなのですけれども、総合計画に合わせて1年延長させていただいて、その間に取組を総合計画と一体的な整合性を図りながら策定させていただくために、1年延長させていただいているという形になります。

もちろん KPI、それぞれ、より本格的な改訂のような形で精査をかけさせていただいて、本当に伸び率はこれでいいのかとさせていただけるのが恐らく一番いいとは思うのですけれども。ここで1年延ばしていくことで、総合計画に合わせて来年度から本格的な2次から3次に向けての策定をさせていただく中で、そちらのほうの作業に注力させていただいて、そちらのほうで改めて、既存の項目が残る、残らないというところがあると思います。そちらにウェイトを割かせていただいて、市のほうでもんだ内容もこの審議会に諮らせていただいて、御審議いただければなというところで考えてございます。

直接的な回答になっていなくて大変申し訳ないのですけれども、そんな形で考えてございます。

また、目指すべき方向性に入っているデジタルという形で、それを KPI に入れたほうがいいのかというところなのですけれども、今回デジタルの方向性をここに入れさせていただいたというところが、手段としてのデジタルというところをデジタル田園都市国家構想、国のほうの構想に盛り込まれている関係で、既存のまち・ひと・しごとの本市の総合戦略の中では、手段としてのデジタルというところは、今のところ何も入っていない。

もちろんデジタル田園都市国家構想総合戦略、国のものに合わせて、本格的に第3次等を策定させていただくときには、根本的から入るような形で盛り込めるよう考えさせていただいているのですけれども。現状、取り急ぎとなってしまうのですけれども、手段としてのデジタルを活用していくのですよというところを市としても方向性を示すために、ここで1年、年次を延ばすに当たって、目指すべきというところで表現がもしかしたらニュアンスが伝わりづらい部分に入っているのかなというところがあるのですけれども、あくまでデジタルを活用した社会課題の解決。社会課題の解決の手段としてデジタルを活用していきます、それが目指すべき姿なのですという形で、あくまで手段としてデジタルを活用していきますよというところを盛り込まさせていただいたという形になってございます。

恐らく、これをまた3次に当たって本格的に改訂していくときに、デジタル関係でいくと、それこそ〇〇委員さんおっしゃられていましたけれども、お子さんとかは割とスマホとか活用されていたり、割と年配の方でも、スマホとかデジタルガジェットを活用されていたりみたいなのところもありますが、一方で、より年配の方になっていくと、デジタルデバイスみたいな形で、なかなかデジタルに触れられなくて、そこからの情報を得られない、デジタル情報弱者の対策をどうするんだみたいなお話が出るかと思います。そういったところも、次期第3次のときには、KPI も含めて盛り込んでいければなというところは考えてございます。そのためのお時間を1年頂くような形で考えていただければ、ありがたいかなというように考えてございます。

以上です。

#### 【会長】

よろしいですか。〇〇委員さん、引き続き何かありますでしょうか。

#### 【委員】

このデジタルを使ってまちづくりをしていこう、つくっていこうと。もちろんその流れは国の施策で来ていますから、皆さんもそれにのっかって、いろいろ取り組んでいるというのはよく理解できるところなのですけれども、本当にそれでいいのというところを持っていただいて。ここで、デジタルだけでは解決できないんじゃないの、もっと人と人のコミュニケーションを円滑にする、スムーズにする。広く共生というか、共有できるような環境。もしできるならデジタルでできればいいけれども、お年寄りの方とか、特に都市計画なんかの場合だと、地権者はみんなお年寄りですよ。その人たちが、そうだねと言ってもらえるような共感を形成するために、デジタルが有効に活用できればいいけれども、なかなかそこは難しいかなと。

だったら、そういう人たちが集まれるような場を提供して、そこでデジタルを使って皆さんとコミュニケーションを図るとか、そんな仕掛けをつくらないと前に行かれないのではないのかな。せっかくいい考えを持っていても、それをどうやって根下ろしをするかというところが課題になるかと思います。

以上です。

#### 【委員】

〇〇です。基本的に、総合戦略を1年延ばして総合計画に合わせるというのは、更新時期が1年ずれていると、総合戦略を更新した後に、1年後に総合計画を更新すると、また若干方向性がずれたりとかそういうのがありますので、大きな方向性とかベクトルがずれないように、更新時期を合わせて、共有して更新していくということには賛成です。

あと、先ほど目指すべき方向性で、デジタルを追加して、その分、その具体的な施策とかKPIがないというのがあって、実際デジタルを活用するというのは非常に幅広いので、今の段階で具体的にこういうことをするというのを盛り込むのは難しいのかなということ

は、理解できますけれども。

ただ、現状のままだと、目指すべき方向性があるって具体的に何をするのかというのが見えてこないの、KPI まではいかなくても、具体的にこういうことをやっていくというようなことを盛り込んでいただくと、これを読む方もイメージが湧きやすいのかなというふうに思います。

以上です。

#### 【委員】

〇〇です。皆さん方、ほとんど言われているのですが、昭和の時代には人口ボーナスでどんどん人口が増えて、同時に経済も成長するという大きなうねりがありました。今は反対に人口オーナスの時代に入り、それにあらがっていこうということを考えながら、いかに人口を一定化させていこうかというのが、今後の方向性だと思うのです。

このときに、基本目標の中の具体的な数字として、令和6年度までは125世帯のものが150になるということにして、先ほどの説明においては、人口の増加により、定住の増加が見込まれるということと言われたのですが、その見込まれるということは、何の要件をもとに25世帯増えると書かれたのか、あるいは望ましい方向がこの25という数字なのか。その辺の説明がなかったので、一つお願いしたいと思います。

あと、デジタル化なのですが、今確定申告でe-taxをどんどんやろうと言っているのに、友達がこの前税務署に行きましたら、2時間待ちだということでしたが、どうしても相談員と相談をしながらという安心感を得ながら行きたいという方向性がある一方、デジタル、デジタルと言って、逆行しているような方向も考えられるので、先ほど〇〇委員が言われたように、相談しながら、では、デジタル化もしましよというような環境を整備するには、市としてどういうような方向で進んでいくのかというのが明確にならないと、ただアドバルーンだけ上げて、あとは勝手にやってくれだと大変難しいと思いますので、その辺を検討していけばいいと思います。

以上です。

#### 【会長】

それでは、私のほうから質問がありますけれども、デジタル化するとき、基本目標の1の子育てを応援しますという裏側のいわゆるICTの整備率。これは、タブレットなんかは、小学校、中学校では1台ずつ子供たちに渡しているのですか。もう既に始まっているのですか。

#### 【事務局】

答えさせていただきます。こちらのタブレットに関しては、現状1人1台というような形で整備をさせていただいているような形です。実際、学校によって頻度等は変わるのですけれども、1人1台のタブレットですので、長期休暇のときには児童生徒に持ち帰っていただいて、それで宿題をしたりみたいなどころを実際に行っているような形になってご



ざいます。

### 【会長】

全国的に整備状況は、高まってきているというのは聞いているのですけれども。

一つは、韓国は、非常にデジタル化が進んでいるのですよね。今から十数年前に、私たちガラケーを持って韓国へ行きましたが、既にそのときに、スマートフォンが一般化していました。日本は遅れているのかというので、びっくりして帰ってきたことを覚えているのです。だから、韓国は賃金も上がってきましたし、韓国のほうが豊かな社会を目指していくのかもしれない。日本は人口が減ってきているのですけれども。人口減少を食い止めるためには、子供に力を入れるということが、やはり私は重要なのかなと思うのです。

一つの例として今、注目されているのは、兵庫県の明石市ですが、ここは人口が増えているのです。

何をやったかという、子供に徹底して力を入れているのです。待機児童がたくさんいた時代に、ゼロにするという対策をやったし、医療費を中学校まで無料化するとかいうことをやって、さらに中核都市にするというのです。中核都市になると児童相談所が設置できるのです。それによって児童の貧困だとか、虐待だとか、そういう問題に市として対処していくのだと。徹底して子供中心の対策を中心にやっていったのです。そうすると、若い人たちが入ってきたわけです。だから、人口が増え、地域は活性化していくわけですよね。

だから私は白井市についても何か例えばデジタルであれば、デジタルのこういうところを中心に力を入れていく、それを徹底的にやる。そういうことをやらないと。ほかのところとは、やっているわけですから。我孫子市もやっているし、流山市もやっている。他の地域と差別化していかないといけないと思います。

どこに重点を置くかというのは、それは市の姿勢、市長さんの考え方だというように思うのです。市長さんに期待したいのは、旗印を立てろという、そこですよね。

〇〇さん、どう思われますか。

### 【委員】

少子化の問題を聞くたびに思うことがあります。子供は国の宝というふうに言われていますよね。皆さんも、そうだねという共感を覚えると思うのですけれども、国の宝であれば、子供の教育とか成人に至るまで、少なくとも18歳になるまでは、国家予算で子供さんを育てたらいいのではないかと。多分これは誰もが、そうだよねと言っただけのではないかと思うのです。そういったことを打ち出してくれるような国家であれば、皆さん納得できると。税金が高いとか、安いとか、みんな言わなくなるのではないかなという気はします。やはりそういうコンセプトが欲しいなと思います。

### 【会長】

国家でやるのは非常に難しいと思いますから、まず地域でやっていく必要があると思う

のです。予算というのは、先生、言っていたら切りがないです。予算は、作り出していくものだというふうに思います。

【委員】

そのところをどのように行政が考えるかというところですよ。

【会長】

はい。意見はいろいろ出ましたけれども、ほかによろしいでしょうか。

そうすると、創生総合戦略の改訂につきましては、原案どおりとしてよろしいでしょうか。

それでは今、委員の皆様方から頂いた意見を踏まえまして、私と事務局において調整を行うというふうにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ということで、議題1は終了したということになります。

## (2) 令和6年度に予定しているデジタル田園都市国家構想交付金の効果検証について

【会長】

それでは、議題2、令和6年度に予定しているデジタル田園都市国家構想交付金の効果検証についてです。

事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料5、6に沿って説明。

【会長】

それでは、今デジタル田園都市国家構想交付金の説明がありましたけれども、次年度の効果検証を実施するに当たり、委員の皆様方の御意見をお伺いしたいと思います。特に委員の皆様方が、あらかじめ確認しておきたい点とかいうことがあれば、お聞かせ願いたいというふうに思います。よろしくをお願いいたします。

【委員】

〇〇でございます。2番目の投稿サービス、これは非常にいい制度で、私ども工業団地の中の道路だとか排水路だとか、そういったところで市のほうの道路課さんの説明も受けながら内容をお聞きして、私もダウンロードさせてもらいましたけれども。今までは、私どもで苦情があると写真を撮って、その写真を基に市のほうに要望書を出していたのですが、これだと位置情報も含めて素早く市のほうに伝わるので、あとは、対応のスピードだけ期待すれば、非常にいいシステムを入れていただいたなという感想でございます。

それと、バスのほうは、渋滞情報といっても、もともとバスの便が少ない、非常にバスが手薄な地域もあって、渋滞情報云々よりも、バスの利用度を図るようなシステムで、バス路線も拡充を図るのだという方向に切り替えてもらいたいというのが要望でございます。

以上でございます。

**【会長】**

ご意見があれば、どうぞお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【委員】**

〇〇です。3事業とも、とても素晴らしいと思うのですが、これらの事業をしているということを市民にどのようにして周知していくのか、周知したのかという内容の具体的なものがあれば、よりよいかないというふうに思いました。

**【会長】**

そこは非常に重要ですね。これ三つとも、素晴らしい事業であることは間違いないのです。それを市民の人がどの程度理解して使ってもらえるとかということが重要なので、その辺りどうですか。

**【事務局】**

バスロケーションシステムに関しては、割と近々で導入が始まったところになるかと思うので、広報がちょうど今、出たか出ていないかぐらいのタイミングだとは思いますが、バスロケーションシステム、あと市民協働投稿システム My City Report に関しては、広報、ホームページ、公式 LINE、あとは皆さんに御審議いただいている官民連携プラットフォームのしろいまっち等々、主として活用できる媒体は基本的に活用させていただきながら、啓発と言うのはおかしいかもしれませんが、周知はさせていただいているような形になっています。

それ以外にもいろいろな周知の仕方あるかと思うのですが、来年度、皆さんに改めて評価を御審議いただくときには、担当課も同席させていただいて、その辺りも含めて御説明させていただければと考えています。

建築行政地図情報システムに関しては、効果としては法人、市民に還元するということがあるので、実際導入しているシステム的には、内部の事務を効率化して迅速に皆さんに対応できるようにみたいところで、新たに市民の皆様には何かシステムを利用させていただくみたいところではないので、こちら私のほうで把握していなくて申し訳ないのですが、恐らく広報等をしてはいないかなと思ってございます。

以上です。

**【会長】**

いろいろな手段を通じて広報をしているわけですが、ただ、受け取る側は、自分の関心のあるところしか見ないというのが特徴です。だから、広報なんかも全体をよく通して見るとかということは、あんまりしないですね。だから、どんどんやっていかななくてはいけない、広報はしていかななくてはいけないのですが、受け取る側も全部を通して受け取るということは、なかなかしていないというのが現状ですね。

ほかにご意見がありましたら、お願いしたいと思いますが、

どうぞ、先生。

#### 【委員】

〇〇です。まず1番目のバスロケーションシステム、これは市のコミュニティバスのみで、普通の一般のバス路線には活用しないのですか。つまり、バスもそれ以外来るでしょうから、それに乗りたい場合にも活用できるのならばいいような気がするのですけれども。一般のバスのところには、これは導入する予定はないのか。

あと、市民協働投稿で、ダウンロード数というのがもし分かれば、何人の方がこれを使っているのかが分かるかと思しますので、それがデータとしてあればいいなと思います。

あと、最後の建設行政、よく分からないのですが、アウトプットするときに役所まで来なければ駄目なのか。または、コンビニ等でプリントアウトできるならば、一々市のほうまで来る必要はないでしょうから、そうすると余計効率化がいいのではないかと思うのですが。どのようになっているか分からないのですが、アウトプットの方法として、どのようになっているのかというのをお聞きしたいです。

#### 【事務局】

まずバスロケーションシステムのお話ですね。こちらナッシー号、コミュニティバスだけとなってございます。私がこれの事業の申請作業の関係で都市計画課と調整をした段階で、たしか船橋新京成バスさんはバスロケーションをそもそも自社で入れてらっしゃったかなと思います。ちばレインボーさんは入れてらっしゃらなかったと思うのですけれども、その辺り、今後どうしていくかというところは、検討の余地があるかなというところは考えてございます。

それで、市民協働サービスのほうですね。こちら現時点でのダウンロード数等々、把握しておりませんので申し訳ございません。評価の際には、もちろんその辺りは皆さんにお示しさせていただきます。

建築行政地図情報システム、こちらについては、事業者さんに実際に窓口に来ていただくしかないようなものになっておりまして、電子申請をかけて、電子申請でそのまま受け取れるというようなものではないという形です。あくまでもともと紙で保管等々しておりましたので、その作業を全て、バックオフィスの作業になりますけれども、電子化することによって、窓口に来ていただいた方に対する応答の時間が早くなるというような形のものになります。

#### 【会長】

ご意見等ありましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

#### 【委員】

〇〇でございます。よろしく申し上げます。この三つの計画、出しているのですけれども、例えばバスロケーションシステムなのですけれども、2023年度が終了している段階で、ダウンロードの数というのはあるのですか。アクセスの数とか KPI を置いて

いますけれども、それに対する現時点でこれぐらいというのは、今まだ分析はされていなかったということですか。

#### 【事務局】

バスロケーションシステムについて、先ほどもお話をさせていただいたのですが、導入されたのが近々2月に入ってからぐらいだと思うので、入ってすぐくらい。入ってすぐの情報でも持ち合わせていなくて大変申し訳ないのですが、もちろん評価の際には、先ほどの市民協働投稿サービスと同様、皆さんにダウンロード数ですとか、その辺りの数値はお示しさせていただこうとは思っています。

#### 【委員】

前回、会議参加させていただいて、今回この三つのものって多分あったと思うのです。それに対して、今現状こうなっていますとか、こういう問題点がありますというのが、本当はこの回で示してほしかったのですが、そこが示されていないというのが残念だったなという気持ちはあるのですが、どこに問題があって、どこに課題があって、利用率がどれぐらいで、どうやって利用させていくのかとか、数値だけでもある程度把握しておいていただきたかったなというところが率直な感想です。

#### 【事務局】

効果検証が来年度というところで、その辺りの数値、把握しておりませんで大変申し訳ありませんでした。現状出し得る数値について、事務局の方で担当課から数値上げてもらいまして、現状値がこんな形になってございますというところは後ほどお送りさせていただいて、次年度評価頂くときに、また改めて、その時点での数値はお示しさせていただくのですが、そういったところを見比べていただきながら、次年度評価いただければと思います。その辺り、準備はさせていただきます。

#### 【会長】

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。この三つの事業は、非常に重要な事業だと思いますけれども、その効果ですよ。

特にバスロケーションなんかの場合には、バスの運行状況が少ないですよ。だから、どれほど住民が期待しているのか。乗っているあれを見ましても、そんなに乗っている感じがしないですよ。空で走っているとかいうのは、よく見かけます。だから、それが本当に住民にとって効果的なのかどうか、バス自体が。これをやることは非常に重要で、これで確認してバスに乗るとかいうことになるわけですから。

先ほど〇〇さんもおっしゃっていましたように、渋滞なんてあんまりないですよ、この町は。一部あるのでしょうか。だから、そういう点でどうなのかなというふうに思いますけど。この事業自体は素晴らしいと思いますけれども、それが一体住民にどれほど役に立っているのかという、そういう検証がやはり必要になってくるかなというふうに思います。

ほかにご意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

**【委員】**

その他のところで意見よろしいですか。

**【会長】**

分かりました。では、交付金の効果検証については、これでいいだろうということで終わりたいと思います。

議題の3のその他に行ってもよろしいでしょうか。

**【委員】**

私ばかりいろいろ言って申し訳ないのですがけれども。人口増やそう、増やそうというふうに皆さんおっしゃるけれども、人口どんどん減ってもいいんじゃないのと。何で人口増やさないかんのと。

片側で、工業団地だけでもって税収が年間で10億上がっている。今度データセンターができる。そうすると、税収が3億入るとか、そういうような億単位での税収が増やせる可能性がある。だったら、そういうものをこつこつと増やして行って、人は入れないと。逆に入るのだったら、お金払ってというぐらいにして、そして入ってきた税金をどう使うのかというところが肝心ではないのかなと。

この町は、税金の使い道、とにかく今市民のサービスということで、市民にお金をどんどん使っていくと、消費する一方ですね。それがまちづくりにはつながってこない。

だったら逆に、人は入ってこなくてもいいと。入ってきた税収を環境整備に充てると。まちづくりに充てて素晴らしい町をつくれれば、人は寄ってくる。みんな勝ち馬に乗るわけですから。そういった構想があってもいいのではないのかなというふうに思うわけです。

もう一つは、何か都市計画とか環境の話をする、お金がないという話が必ず出る。お金は、市の債権を発行するとか、お金をとにかく集めて素晴らしい町をつくれれば、そこには人が集まってくるから、将来入ってくるお金でもって返済していくと。市民からの借入れをするとか、国から、あるいはいろんなところから借金してでも素晴らしい町をつくって、それから人口を増やすということを順番として。一番は何と言ったら、環境整備。環境を整えれば人も集まってくるというような考え方は、どうなのかなというふうに思う次第です。

**【会長】**

一つの考え方としては、非常に重要だというふうに思います。事務局から、その他のところで。

**【事務局】**

では、事務局のほうから。その他についてというよりも御報告というところにはなるのですがけれども、令和4年の第2回目、昨年3月ぐらいに行った審議会の中で、企業版ふ

るさと納税に関する御意見を委員の皆さんから頂いたというところで、本年度、企業版ふるさと納税どうしていいかというところで企画の中で検討させていただいて、トップセールスの検討と、あと今、企画政策課のほうで、官民連携というところで包括連携を結ばせていただいている事業者さんがいらっしゃると思いますので、そういったところに対するアナウンスを検討したところです。

トップセールスに関しては、事業者さんのほうから名簿を頂くことが難しそうだなというところがございましたので、トップセールス等々のやり方は、今後どうやっていいかというところは検討させていただきたいなというところでございます。

もう一つ、包括連携の事業者に関しては、ちょうど市長の就任時期でしたので、就任挨拶と合わせて企業版ふるさと納税の御案内等々はさせていただいた形になります。なかなかそれがすぐ企業版ふるさと納税の寄附に直結するものではなかったのですが、そういった取組を続けながら、新たに財源を増やしていくような取組をしていければなというところで考えてございます。

報告ということで、そのような形になっております。以上です。

#### 【会長】

ほかにご意見ありますでしょうか。もうちょっと時間ありますけれども、よろしいでしょうか。

#### 【委員】

議題の1に関係すると思うのですが、次期の策定がそろそろ入っていく時期だと思うのですが、人口を増やすってなかなか難しいのですが、日本の経済を、今、見回してみると、コロナの後のインバウンドを使ったまちづくりが面白い。

要は、外国人をどれだけこの白井に引きつけるか、あるいは住んでもらうかということだと思うのですが。外国人の方々、入ってこない、恐らく人口は伸びないと思うのです。外国人が入ってくること自体に抵抗感ある市民の方もいるかと思うのですが、この白井市をより発展させるためには、インバウンドを利用したまちづくりというのを全国に先駆けてやっていただきたいなと。

その中で、就業の場所は、工業団地というところで考えていただいて。工業団地の企業は職人を育てる会社なのですね。ベルトコンベアで部品が流れてきて組み立てをするのではなくて、一人一人が技能を持った企業の集団になっていますので、そういったところに外国人を呼び込んで定住してもらって、白井の経済も活性化してもらおうと良いのでは。

もう一つは、このインバウンドを使うことは、教育を少し転換をしていかななくてはいけない。今、IT教育と英語教育、導入されていますが、このITと英語教育をもう少し膨らませて、インバウンドを呼び込んでも大丈夫なような教育と、市民の理解度を高めるというようなところを総合的に次期の計画の中に取り込んでいただきたいというのが私の要望です。

**【会長】**

非常に重要な指摘だというように思います。だって若い人がいないと。特に若い女性ですよね。女性がいないと子供産まないわけだから。だから必要ですよ。

それでは、ほかに御意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〇〇先生、いかがでしょうか、御意見。

**【委員】**

今、私、我孫子に住んでいるのですが、イベント等に関する情報が入ってこない点があります。

去年の秋ぐらいでしたか、公園のところで何かイベントをやっており、たまたま通りかかったのですが、そのような催しがあり、我孫子の方でも分かれば、じゃあ、子供を連れていこうかと思うのですが、そういう情報というのがなかなか入手できないので、広報活動的なものをもっと積極的にやってもらえばいいと思います。

以上です。

**【会長】**

白井市のふるさと祭りに行きましたけれども、非常に盛況で楽しかったですよね。ああいうイベントも重要だと思うのです。

ほかにご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして令和5年度の第2回目の白井市まち・ひと・しごと創生審議会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。